

令和 5 年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立鶴見橋中学校

令和 6 年 3 月

大阪市立鶴見橋中学校 令和 5 年度運営に関する計画・自己評価（総括シート）

I 学校運営の中期目標

**現状と課題**

全国学力・学習状況調査結果等から、生徒たちは興味・関心をもって学習に取り組んでいるものの学力向上に十分結びついていない現状が見られる。日々の教育活動を通じて、より深く生徒理解に努め、基礎学力の定着・向上を図り、子どもたちが自立するために必要な力を身につけさせる必要がある。また、本校の人権教育の取組を充実させ、「いのち」や「つながり」を大切にする教育活動を展開し、自尊感情の育成に努める。それらのことを踏まえ、次の３点について学校課題として取り組む。

- ①子どもたちが自立し、将来の『社会の形成者』となるような取組
- ②『いのちの大切さ』『人と人とのつながり』を大切にする教育の取組
- ③自己実現を図る教育の取組

**中期目標**

**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を 0 名にする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を令和 3 年度と比較し減少させる。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和 7 年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均の割合をいずれの学年も 0.8 以上にする。
- 令和 7 年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合をいずれの学年も 50%以下にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、90%以上にする。
- 令和 7 年度の生徒対象のアンケートで「教科の学習はわかる」の項目に肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、対全国の 1.1 倍にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を 100%にする。
- 教員の勤務時間の時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下を満たす教職員の割合を 50%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- 生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における C E F R A I レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 40%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- 生徒対象の授業アンケートで「教科の学習はわかる」に対して肯定的に回答をする生徒の割合を 70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、前年度の調査より向上させる。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 授業でコンピューターなどの ICT を「毎日使用した」と答える生徒の割合を 65%以上にする。
- 教職員の時間外勤務の 4 5 時間以上の割合を 50%以下にする。

#### 学校園の年度目標

- 全教科で学習者用端末を活用した研究授業を年間 1 回以上実施する。
- 全教科においてデータに基づいて PDCA サイクルを回す。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 安全・安心な教育の推進

- ・「いじめ」に対する生徒の意識の向上について、目標を達成することができた。
- ・不登校の在籍率、改善率について、共に改善できた。今後も生徒、保護者に寄り添った支援を続けていく。
- ・「命や人権の尊さ」に対する生徒の意識の向上については、まだ目標には達成していない。取り組みは充実している。事前、事後の意義付けをさらに重視していく。
- ・「学校生活は楽しい」については、まだ目標に達成できていない。生徒主体の授業改善、行事の充実をさらに進めていく。
- ・支援教育研修、巡回相談での生徒理解については、計画通り取り組むことができた。今後は、令和 8 年度の校内通級指導への体制づくりに取り組んでいく。
- ・SWPBS（学校規模ポジティブ行動支援）の取り組みは継続し、さらに良いものにしたい。

#### 未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深める」については、達成できた。R6 は「総合的読解力育成の取り組み」に取り組む。教科横断型の学力の育成が課題である。
- ・チャレンジテスト国語、数学の平均点の対府比を同一集団で経年比較については、向上させることができた。今後も授業改善、学習環境改善を基本とし、基礎的学力の向上に取り組む。

- ・英語力調査 CEFR A1 レベルの 40%の目標は達成できなかったが、英検 5 級の合格率は向上させることができた。
- ・「教科の学習はわかる」については、目標を達成させることができた。授業に対する意欲・興味関心については、持たせることができている。
- ・「運動やスポーツが好き」について、男子は達成することができた。また、全国体力・運動能力、運動習慣等の女子の結果は全国を超えることができた。
- ・次年度は家庭学習の充実に取り組む。

#### 学びを支える教育環境の充実

- ・「授業で ICT を毎日使用」について、教員の使用はできている。今後は、生徒が主体となって ICT 機器を使用した共同学習への授業スタイルの改善に取り組む。同時に、従来の生徒がノートを書くなどの「書く」ことも重視し、バランスをとった学習指導に取り組む。
- ・教職員の時間外勤務については、改善することができた。学校行事等の見直し、会議の削減、定時勤務退勤日の設定などにさらに取り組む。
- ・学力面、生活指導面の両面でのデータ活用をさらに進める。改善状況の見える化を図る。学力面については、各学力調査結果（対平均比 平均の 7 割比の経年化比較変化など）生活指導面については、学校評価アンケート結果、アセスのデータ項目、遅刻数などの集計での経年変化を活用していく。

(様式 2)

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標Ⅰ 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標（中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。 <b>R5 12 月…75%</b></p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <b>R5 年の 2 学期末の不登校生の在籍比率は、7.0% R4 年の 2 学期末は、12.9%</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 <b>R5 7 月…84% R5 12 月…86%</b></p> <p>○生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 <b>R5 7 月…79% R5 12 月…70%</b></p> <p>○教職員対象の支援教育に関する校内研修を 1 回以上実施する。巡回相談での結果を共有し、個別の支援に生かす。</p>	<b>B</b>
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>○「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう学年ごとにカリキュラムを作成し、授業力向上の研修を図る。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。<b>R5 7 月…84% R5 12 月…86%</b></p>	<b>A</b>

<p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を実施する。 ( 人権を尊重する教育の推進 )</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○全校生徒参加の人権の取組を年 3 回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>○地域の方に開かれた学校づくりに関する取組、自分たちの地域や自分たちの将来について考える取組、探求・読解プログラムを実施する。 ( 地域学校協働活動の推進 )</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○地域の方とともにする取組を毎週 1 回(火・木)以上、自分たちの地域や将来について考える取組を学校全体として年 3 回(平和登校日・人権集会・人権作文発表会)以上実施する。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○ユネスコスクールとして、学校行事を SDGs の取組に合わせて精選し、実施する。 また、国際理解教育を深め、国際社会を生き抜く力を育む。 ( 多文化共生教育の推進 )</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○週 1 回、国際理解教育と人権教育の取組の実施。 (朝鮮問題研究会・多文化学級・同和教育・支援教育)</p> <p>○SDGs に合わせた、学校行事の実施。 (防災学習・平和学習・環境保全・奉仕活動など)</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○支援教育に関する校内研修を年 1 回以上実施する。</p> <p>○支援教育の巡回指導を年 1 回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。 ( インクルーシブ教育の推進 )</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 R5 7 月…97% R5 12 月…89%</p> <p>○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。R5 7 月…88% R5 12 月…95%</p>	B
<p>取り組み内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○学校規模ポジティブ行動支援の考えに基づき、目指すべき生徒像「鶴見橋中 3 つの T」を策定し、今年度の教育活動の基礎として位置づけ、生徒へのフィードバックを行う。 ( 人権を尊重する教育の推進 )</p>	B

<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合を 70%以上にする。 <span style="color: red;">R5 7 月…61% R5 12 月…57%</span></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>年度当初の計画通りに進められた。また、新たに「がん教育」の取組を実施した。次年度の年間計画についても検討済みである。</p> <p>取組内容②</p> <p>計画通り、全校生徒参加の人権の取組を年 3 回以上（平和人権登校日、芸術鑑賞会、人権集会、人権作文発表会）実施することができた。</p> <p>取組内容③</p> <p>計画通り、地域の方とともにする取組を毎週 1 回(毎週火曜日のほっとスペース、毎週木曜日の UT)以上、自分たちの地域や将来について考える取組を学校全体として年 3 回(平和登校日・芸術鑑賞会、人権集会・人権作文発表会)以上実施することができた。</p> <p>取組内容④</p> <p>今年度も木曜日 6 限の UT(ユネスコタイム)に、計画立てて実践を重ね、同和教育・支援教育・国際理解教育の取組をそれぞれ推進することができた。同和教育に関わる芸術鑑賞会での太鼓の演奏、支援教育に関わる人権集会での講話をはじめ、生徒が人権について学ぶ機会を計画的に設定することができた。</p> <p>SDG s パスポートを利用し、日本ユネスコ協会から「ボランティア活動認定証」を 5 名、大阪ユネスコ協会から「ボランティア活動奨励賞」を 4 名、計 9 名の生徒が表彰を受けた。</p> <p>取組内容⑤</p> <p>2/22 支援教育に関する校内研修（発達障がい基礎講座）を実施することができた。</p> <p>支援教育の巡回指導を、5 月（1 年）、2 月（2 年）に活用し、個別の支援内容の共有を図ることができた。</p> <p>取組内容⑥</p> <p>「いいところ見つけ」の取組を年間 5 回、「鶴見橋中 3 つの T」のフィードバックを 12 月と 2 月に 2 回実施した。</p>	



## 次年度への改善点

### 取組①について

新しい取組が入ってくるため、従来の取組内容や時間を見直す必要がある。

### 取組②について

芸術鑑賞会と人権集会の日程が1週違いだったため、連携して日程を調整していく。

### 取組③について

毎週木曜日の UT（同和）のつについては、きずなクラブの生徒の意見も取り入れて計画を進めていく。

### 取組④について

引き続き次年度も木曜日6限の UT(ユネスコタイム)に、人権に関わる取組(同和教育・支援教育・国際理解教育)を行い、計画立てて実践を重ねる予定である。

### 取組⑤について

次年度支援教育に関する校内研修については、令和8年度自校通級開設に向けて、テーマ「通級による指導」を実施予定している。

巡回指導については、実施日の時間割変更があったため、想定していた教科とは違う授業になり、相談内容に合わせた場面の見学が難しかった。

### 取組⑥について

取組自体は計画通りに実施できたが、アンケート結果については、目標の値に届かなかった。

「いいところ見つけ」については、回数の見直しを行い、来年度は3回の実施で予定している。

「鶴見橋中3つの T」のフィードバックについては、項目を絞ったフィードバックを継続していくとともに、マトリックスの見直しを研修の中で実施していく。

(様式2)

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。 R5 7月…29% R5 12月…31%</p> <p>○中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。 中学3年生 R4 国…0.65 数…0.57 R5 国…0.69 数…0.71</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を40%以上にする。 R4…26.9% R5…19.4%</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○生徒対象アンケートの、「教科の学習はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を60%以上にする。 R5 7月…75% R5 12月…79%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない 学力の向上】</p> <p>○漢検を全校で実施する。</p> <p>○KODOMO新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。</p> <p>○ICTを活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。</p> <p>-----【言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成)】-----</p> <p><b>指標</b></p> <p>○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 R5 7月…1年82%、2年94%、3年78% R5 12月…1年93% 2年…93% 3年…82%</p> <p>○漢検において、5級の合格率を昨年度より向上させる R4…19% R5…2%</p>	C

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○英語検定、GTEC を実施する。また、それらの取組の対策を実施し、基礎学力の向上を図る。 <div>( 英語教育の強化 )</div>	B
指標 ○英語検定において、5 級の合格者を前年度より向上させる。 <div>R4…21% R5…43%</div>	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○すべての教職員が年 1 回以上の研究授業を行い、相互参観、指導助言をすることで授業力向上を図り、わかりやすい授業を目指す。 <div>( 教員の資質向上・人材の確保 )</div>	B
指標 ○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を 60%以上にする。 <div>R5 7 月…75% R5 12 月…79%</div>	
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○朝の学習、放課後学習に取組み、学習習慣を身につけさせ、基礎的学力を向上させる。 <div>( 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成） )</div>	B
指標 ○チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 <div>R4 2 年生 66% R5 3 年生 59%</div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 従来通りの取組を行った。生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合も少なくはない。 <div>(R5 12 月…1 年 66%、2 年 84%、3 年 86%)</div> しかし、漢字検定の結果(5 級合格者が 2%)が、過去最も悪かった。	
取組内容② 英語検定において 5 級の合格者が 43%と昨年の 21%に比べて大幅に向上した。また、英語検定受験者の全体の合格率は、53%と、受験者の 2 人に 1 人が合格する結果となった。	
取組内容③ すべての教職員が年 1 回以上の研究授業（大阪市教育センターのスクールアドバイザーによる見学及び助言）を行い、相互参観、意見交流を行った。生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均 74%であった。	
取組内容④ チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、3 年生については、66%→59%に減少させることができた。家庭学習時間については、課題があり、今後改善に取り組む。	

### 次年度への改善点

#### 取組内容①

小学校までの漢字を理解している生徒が年々減少している。公立高校入試で出題される漢字の書き取りは5級程度であるため、漢字の学習が必要である。

一方、作文を書く力や読解力については、回答率、正答率が向上している部分もある。

#### 取組内容②

英語検定においての合格率が向上した。また、1月に実施した英検5級、4級の再テストにおいても4級の受験者が全員合格するなど英検保有者の数が向上した。

#### 取組内容③

今年度は大阪市教育センターのスクールアドバイザーによる授業見学があり、研修授業推進期間の内容を変更した。来年度も内容の検討が必要である。

#### 取組内容④

来年度は学校全体として、家庭学習課題について見直しを図り、課題の出し方、評価の仕方、何を目的として、課題を出すのかについて、共通理解と方針を持って取り組んで行く。

(様式2)

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を50%以上にする。 男子…63.4% 女子…43.1%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、前年度の調査より向上させる。男子R4…48.7 R5…48.3 女子R4…40.9 R5…51.2 女子は全国を上回った。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○縦割りで行う球技大会をはじめとして、各学年でも体育的行事に取り組む。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標</p> <p>○各学年で3時間以上の取り組みを実施する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>○一泊移住では、ビーチバレー等のスポーツや、カッター・カヌーといったマリンスポーツを行った。また、7月には学年のバドミントン大会も実施した。(1年)</p> <p>○体育大会や文化祭の取り組みで学年演技の練習を実施した。また、1・2年生合同球技大会を年度末に実施する予定である。(2年)</p> <p>○修学旅行では、アスレチックやラフティングなど、様々な取組を実施した。また、学年でのレクリエーションでは、クラスメイトと交流を深めながら、体を動かすことができた(3年)。</p>	
次年度への改善点	
<p>○次年度は泊行事がなく、校外でのスポーツなどの活動が少ないため、学級代表や体育委員を中心に学年レク等を企画していく。(1年)</p> <p>○他学年と連携し、学年でも計画的に体育的行事を実施していく。(2年)</p> <p>○他の行事との兼ね合いを考えながら、計画的に実施していきたい(3年)。</p>	

(様式 2)

## 大阪府立鶴見橋中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>全市共通目標 (中学校)</p> <p>【ICT の活用に関する目標】</p> <p>○授業でコンピューターなどの ICT を「毎日使用した」と答える生徒の割合を 65% 以上にする。 R5 7 月…58% R5 12 月…52%</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>○教職員の時間外勤務の 45 時間以上の割合を 50% 以下にする。 R5…4 月 50% 6 月 50% 7 月 54% 8 月 0% 9 月 48% 10 月 42% 12 月 25% 1 月 25%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○全教科で ICT を活用した研究授業を年間 1 回以上実施する。</p> <p>○全教科においてデータに基づいて PDCA サイクルを回す。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○校内研修支援事業を活用し、全教科で ICT を活用した研究授業を年間 1 回以上実施する。 ( ICT を活用した教育の推進 )</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。 R5 7 月…97% R5 12 月…89%</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○各種学力調査データを教科担当が分析し、PDCA サイクルを回す。 ( データ等の根拠に基づく施策の推進 (教育ビッグデータの活用等) )</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合を 75% 以上にする。 R5.7 月…100% R5.12 月…89%</p>	B

取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○サポーターを組織的に活用し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保する。 (働き方改革の推進)	B
指標 ○毎月の 45 時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合を 50%以下にする。 R5…4 月 50% 6 月 50% 7 月 54% 8 月 0% 9 月 48% 10 月 42% 12 月 25% 1 月 25%	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 研究授業推進期間や校内授業研などを通して、授業内容の検討・研修をする機会を作ることができた。教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合は 89%であった。	
取組内容② 「学習指導、生徒指導の改善にデータを活用している」との肯定的な割合が 89%に達した。毎学期末の生徒・保護者アンケートを通して学習状況の把握を各教科が実施し、スクリーニング会議を通して生徒の様子を共有できており、今後も継続する。	
取組内容③ サポーターを活用し、授業中の生徒支援、登校生徒の見守り、教材準備等での教員の業務軽減を図ることができた。	
次年度への改善点	
取組内容① 研修授業推進期間、校内授業研の内容を精査していく。	
取組内容② 次年度も引き続き、スクリーニング会議を通して生徒・家庭の状況の把握に努めるとともに、学期末の生徒・保護者アンケートを通して、学習指導の検討を考える。	
取組内容③ 来年度のサポーターの人材の確保が課題であり、次年度も常勤に近い勤務でのサポーターを複数名配置できるようにしていく。	

## 大阪市立鶴見橋中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容【各教科】</b> <b>【国語】</b> ○漢検を全校で実施する。 ○KODOMO 新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。 ○ICT を活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。	C
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。 ○漢検において、5 級の合格률을昨年度より向上させる(昨年度 19%)。	
<b>【社会】</b> ○ICT を活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を行う。 ○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させる。	B
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。	
<b>【数学】</b> ○ICT を活用し、数学への興味・関心を高める。 ○基本的事項の習得に向けて、プリントなどを活用し反復して演習を行う。	B
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「数学の授業はわかる」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。	
<b>【理科】</b> ○実験や観察などの体験的な授業を積極的に行い、基礎知識や実験技能の向上を図る。 ○スライドやデジタル教科書などの視覚教材を活用し、基礎知識の向上を図る。 ○夏の自由研究やパソコンを用いた調べ学習など学習を深める取り組みを行い、思考力や判断力、表現力の向上を図る。	B
<b>指標</b> ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。	



<p>【音楽】</p> <p>○ICT を活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める。</p> <p>○楽曲理解を深める活動を行うことで、個々の思考力・判断力を育て、考えたことが表現力を高めることに繋がる授業計画を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>○興味・関心の向上に対する肯定的な回答を 75%以上にする。</p> <p>○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 65%以上にする。</p>	
<p>【美術】</p> <p>○グループワークや発表の機会を設け、主体的・対話的な授業をめざす。</p> <p>○单元ごとに冊子を作り、授業の進行具合を明確にして、生徒の興味・関心を高め、美術活動に対する意欲を伸ばす。また、提出率を 80%以上にする。</p>	B
<p>指標</p> <p>○各単元に於いて自己評価を充実させて、言語能力を高めていく。</p> <p>○授業アンケートの「授業を受けて、その内容に興味関心や意欲をもつようになっていきますか」の項目にて、「そう思う」「大体そう思う」の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>【保健体育】</p> <p>○体づくり運動を体育の授業で毎時間、継続的に取り組むことで、基礎体力の向上を図る。</p> <p>○週に 1 回以上、試合で仲間と共に考え、協力して取り組める機会を作る。</p> <p>○生徒が安全に取り組めるように、準備運動を毎時間徹底し、学習環境の整備をする。</p>	A
<p>指標</p> <p>○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答を 70%以上にする。</p> <p>○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答を 70%以上にする。</p>	
<p>【技術家庭】</p> <p>○情報モラルや情報リテラシーについて取り組む。</p> <p>○家庭生活の衣食住について興味を持ち、家族と話せるように取り組む。</p> <p>○SDGs のエネルギー分野での知識を深める。</p>	B
<p>指標</p> <p>○「授業内容が分かる」の回答を 60%以上にする。</p>	
<p>【英語】</p> <p>○授業において【復習→めあて→本時の学習→振り返り】の流れを固定し、生徒が安心して授業に取り組むことができるよう工夫する。</p> <p>○C-NET を活用し、生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、工夫する。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒アンケートにおいて「英語の授業はわかる」の回答を 60%以上にする。</p>	

	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来通りの取組を行った。生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合も少なくはない。(R5 12月…1年66%、2年84%、3年86%)しかし、漢字検定の結果(5級合格率が2%)が、過去最も悪かった。小学校までの漢字を理解している生徒が年々減少している。公立高校入試で出題される漢字の書き取りは5級程度であるため、漢字の学習が必要である。</li> <li>・一方、作文を書く力や読解力については、回答率、正答率が向上している部分もある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末に実施するアンケートでは「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は78%であり、目標を達成することができた。</li> <li>・毎回の授業でICTを活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を展開することができた。</li> <li>・授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させることができた。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末に実施するアンケートでは「数学の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は64%、「数学の授業は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合は73%と目標を達成することができた。</li> <li>・今後も学習者用端末を活用した興味・関心の向上、反復した演習での基礎学力向上を図っていききたい。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末に実施した教科アンケートでは、「理科の授業はわかる」に対して肯定的に回答した生徒の割合は70%（1年75%、2年62%、3年73%）であり、目標を達成することができた。</li> <li>・デジタル教科書やスライドを活用し、自然現象を視覚的に見せることができた。また、できる限り実験・観察を行い、わかりやすい授業を展開することができた。夏休みには自由研究を実施した。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を用いて視覚的にもわかりやすく、音声や映像から興味・関心・意欲を高める授業を行った。</li> <li>・学期末に実施した学校評価アンケートでは、興味・関心の向上に対する肯定的な回答は全体で82%であった。また、「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、全体で79%であったため、目標を達成することができた。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元毎に冊子を作ることで、何をしているのかが分かりやすくなっている。アンケートの結果からみると学年の平均が73%であり、好きと答えた生徒では2年生が81%になっている。この調子で進めていきたい。</li> </ul>
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業での体づくり運動の実施とトレーニングを行うことで、体力の向上を図った。</li> <li>・安全に取り組めるよう、毎時間の準備運動を徹底し、けがの防止に努めた。</li> <li>・学期末に実施したアンケートでは、「興味・関心・意欲向上」に関する項目では、肯定的に回答する生徒の割合は男子が93%、女子が92%であった。また、「体育の授業はわかる」の項目において肯定的に回答する生徒の割合は、男子が90%、女子が86%であった。</li> </ul>

技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年情報モラル、リテラシーについて取り組んだ。ニュースや動画を例に出し生徒と考えていった。</li> <li>・夏の課題で「食のレシピコンテスト」に応募したり、調理実習などを行い、家族との話を引き出し学級で発表した。</li> <li>・各分野の授業の中、折に触れSDGsのエネルギーに関して知識を深めた。</li> <li>・「授業内容が分かる」の肯定的な回答が学年平均で74%であった。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C-NETと連携し、コミュニケーション主体の授業を行うことで生徒が英語を使ってコミュニケーションを図る機会を増やすことができた。。</li> <li>・生徒対象のアンケートにおいて、「英語の学習はわかる」の質問に対し、1年59%、2年51%、3年65%とおおむね目標を達成することができた。</li> </ul>